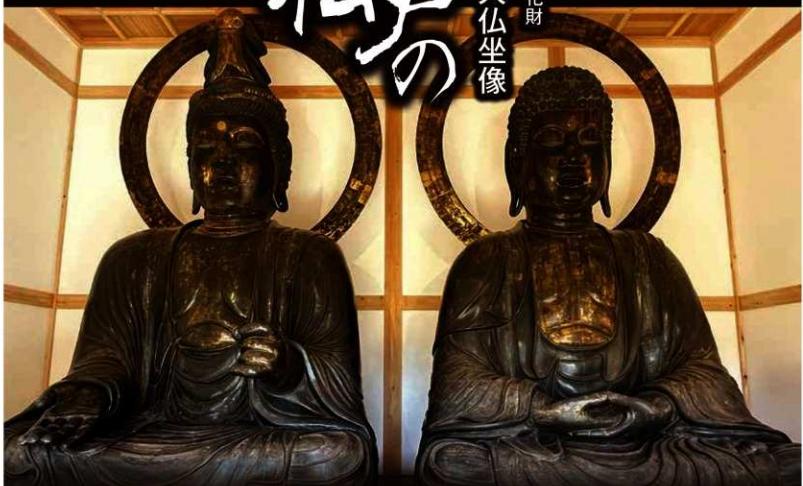


源宗寺本堂保存修理事業

熊谷市指定有形文化財

# 平 仏 戸 の 木彫大仏坐像



源宗寺本堂保存修理事業は熊谷市指定文化財の保護事業という重要な意義を持つと同時に、地域の皆様をはじめとする「平戸」の大仏に対する信仰を次世代に引き継ぐ悲願の人気なプロジェクトであったことを改めて認識しているところであります。

昭和時代以降、源宗寺本堂の老朽化が進み、いかなる方法をもって再建するかという難題が熊谷人の我々の前にありました。こうした中で、地元平戸地区の方々や義持会組織を中心に、熊谷市教育委員会、商工関係者を含む産官学が連携し、私達、保存修理事業委員会が結成されました。事業の進捗に際しては、建造物の保存修理の件を超えた複数の課題と向き合うことが求められ、昨今のコロナ禍の影響も多分に受け、一時休止せざるを得ない事態にも見舞われました。

それともなお、同委員会各位は前を向き、諒めず、一歩一歩邁みながら、新本堂の完成に向けて努力を重ねてきました。そして、完成了した新本堂に再び戻られた楽師如来と親世音菩薩の表情も、旧来と比べ、穏やかで希望に満ちた表情に見えるようになります。

この取り組みに対する多くの皆様の御協力と御賛同が原動力となり、この度の新本堂の竣工に至りました。感謝申し上げる次第です。ここに世紀を越えて達成した熊谷の奇跡に想いを馳せるとともに、次世代へ継承されることを頼ってやみません。

源宗寺本堂保存修理事業委員会 会長 木島 一也

## 歩み

## 「木彫大仏坐像」の概要

源宗寺本堂に安置されている熊谷市指定有形文化財・彌刻「木彫大仏坐像」は、江戸中期に制作された「薬師如来坐像」(高さ48メートル)及び「觀世音菩薩坐像」(高さ93メートル)の二体である。木造本尊としては埼玉県内最大規模で、全国的に珍しい。平戸の地名を冠して「平戸の大仏(おおほとのけい)」と称されている。昭和29年(1954)には熊谷市の有形文化財に指定された。

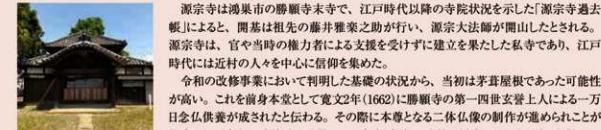
觀世音菩薩坐像(左側)と  
藥師如來坐像(右側)

仏像は内陣の蓮華座上に安置され、向かって右側が「薬師如來坐像」、左側が「觀世音菩薩坐像」である。薬師如來坐像は禪定印に手を結び、令和の改修時点では墨書きは無かった。また、觀世音菩薩坐像は左手に持つ蓮華が失われているが、両像とも全体的な造形美が維持されている。昭和30年(1955)頃に確認された堂内墨書きによると、仏像制作に関しては仏師である源宗円と江口兵衛が担い、漆塗り・金箔押・朱漆等を施師である中西村の喜平と沼黒村の太兵衛が担当したとされる。令和3年(2021)10月には、「寛文三年(1663) 仏師松田庄兵衛」の墨書きが薬師如來坐像内から発見された。

発見された墨書き  
「寛文三年(1663) 仏師松田庄兵衛」  
(吉備文化財修復所提供)

二体の胸内に収められていたとされる「秘伝書」は、神経痛などの妙薬として特に周知され、昭和40年代前半までこれを求める人々がいたと伝わる。また、目の妙薬を販売していたとの伝承もある。

## 源宗寺旧本堂の概要



源宗寺は鴻巣市の藤原寺末寺で、江戸時代以降の寺院状況を示した「源宗寺過去帳」によると、開基は先の藤井雅楽之助が行い、源宗寺法師が開山したとされる。

源宗寺は、官や当時の権力者による支援を受けずに建立を果たした私寺であり、江戸時代には近村の人々を中心とした信仰を集めめた。

令和の改修事業において判明した基礎の状況から、当時は茅葺屋根であった可能性が高い。これを現在本堂として寛文2年(1662)に藤原寺の第一四世玄誓一人により一万日念仮供養が成されたと伝わる。その際に本尊となる二体仏像の制作が進められることが推定される。令和の改修時に発見された寛文3年(1663)銘の墨書きがその証明となるを得る。

以降、正徳3年(1713)に大仏は損傷し、近隣村々の援助を受けて修復されたが、寛保2年(1742)8月の大洪水では再び二体の大仏は被損したとされている。その後、第八世営嘗上人が本堂を直面するなどの再建を行い、大仏の修復にも努めたと伝わる。

源宗寺は、江戸時代後期には僧侶を配置しなかったため、近隣の人々によって東竹院が仏事を担い、檀家組織の護持会が今まで維持管理を続けてきた。そして、平成31年(2019)3月、建物全体の老朽化が著しくなる中、「源宗寺本堂保存修理事業」が発足し、令和の改修事業及び二体の仏像保存修理事業の実施へと結び付いたのである。

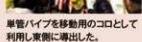
## 源宗寺本堂改修事業の要点

平成31年(2019)に本事業を担う組織としての源宗寺本堂保存修理事業委員会(会長:木島一也)が始動し、改修工事の主体者として事業運営を進めてきた。建造物の新築費用約4,000万円・周辺整備等工事費400万円の事業計画の中で、約1,000人からの寄附金、熊谷市からの補助金500万円・檀家組織の負担金などを含め、費用面の「穴」と以降の保存維持に対する「寄附募集」をされている。施工業者は社寺建築の保存修理に関する県内外の業績を上げている株式会社大工商店(深谷市柏合)であり、令和2年(2020)8月に実施したプロポーザン(事業内容提案型)入札によって決定した。加えて、仏像の修復を吉備文化財修復所が担当することになった。

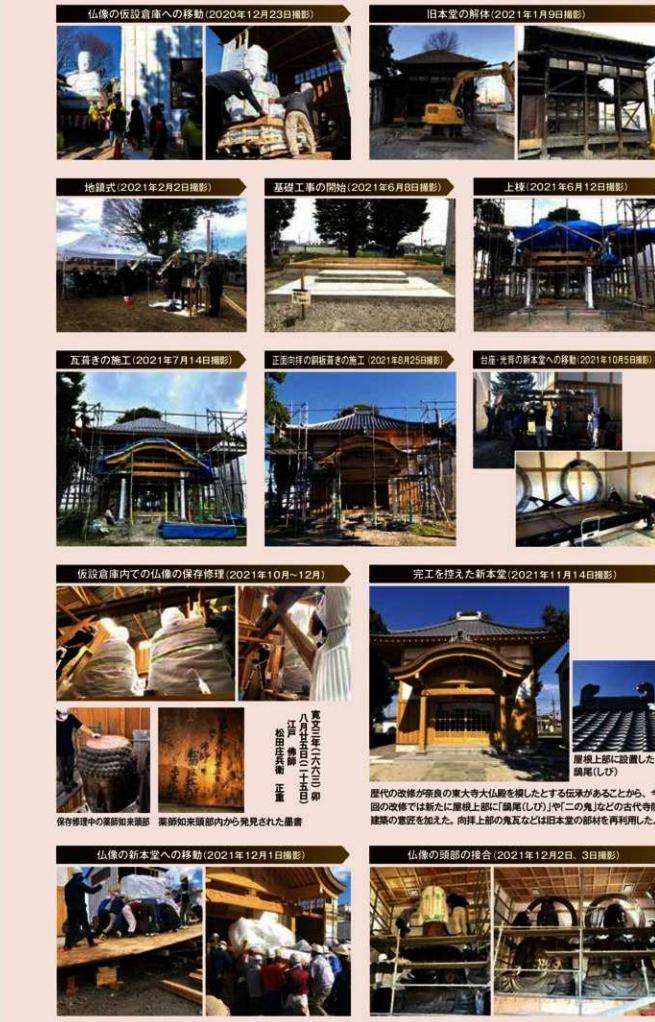
解体前には、使用可能な部材を再利用する計画であったが、想像以上に劣化が激しいことが分かり、一部の彫刻や鬼瓦などの再利用に留めることになった。改修内容は概ね復元新築となった。

改修のコンセプトとしては、明治時代以降、奈良の大東大寺の大仏殿に倣して改修が行われてきた經緯があることから、屋根に「鶴尾(しひ)」や「二の鬼」などの古代寺院建築の意匠を加えることで、新たな時代への継承という念頭を込めた。

保存修理事業では、令和2年(2020)12月末に源宗寺の旧本堂を解体し、大仏坐像二体(觀世音菩薩・薬師如來)の仮設倉庫への人力での移動を実施した。令和3年(2021)3月から基礎工事と始点に新調査復元工事を開始。6月以降は木工事業を開始。7月上旬には瓦の設置工事が開始。7月下旬、屋根の大棟両端に「鶴尾」が設置された。

旧本堂からの仏像の移動  
(令和2年12月23日)本堂東側桁を解体し移動される直前の  
薬師如來単管パイプを移動用のコロとして  
利用し東側に導出した。

# 足跡





# 源宗寺の大仏メモワール —調和する造形の美と信仰の歴史—



# 源宗寺本堂保存修理工 プロジェクトの経過



古代ギリシアの時代、哲学者ピタゴラスの思想を背景として、世界の本質を知る最も重要な学問に「数論」、「幾何学」、「天文学」、「音楽」があり、これらの道究が日常生活から宇宙全体まで支配する「調和(ハーモニア)」の原理を解き明かすと考えられていた。

一方、プラトンは人間の魂に理性、「音概」、「欲望」に区分し、魂の調和により「正義」が実現されると説いた。「調和」とは、職人による各部材の完全なる接合といいギリシア語から派生し、事物や現象の全体的な均衡の美を意味している。

現実と理想を結び付け、相反する立場を包容する。人間がこうした調和への振りや願いを認めて、仏像に対する信仰や仏像の美を愛する文化を継承してきた。熊谷の郷土と深く関わる仏像の歴史。一つが平戸の源宗寺で息づいている。

源宗寺は17世紀初頭に九州平戸から移住したときれる藤井雅楽之助が開基し、薬師如来と觀世音菩薩の二体の「木彫大仏坐像」が横に並び安置している。仏像の存在は武藏国の地誌「新編武藏風土記稿」にも記され、古くから地域の歴史とともにあった。寛文2年(1662)に制作開始し翌年に完成。元禄14年(1701)に再び着手され現在の本尊となる。二体の仏像は台座を含めると約4メートルの規模を誇り、「平戸の大仏(おおほとけ)」と呼ばれている。

江戸の松田庄兵衛が高い技巧性をもって完成させた

仏像は、寺伝によると、仏師の宗円と江戸跡兵衛が改修を招き、中西村の喜兵衛や沼黒川の太兵衛ら近隣出身の能工が丹念な技術を發揮した。木彫には優美な造形美と重厚感が融合し、迫力ある姿勢で、円熟の光背も人見。表面は金箔の上に黒漆を塗る技法が用いられ、光沢を帯びている。仏像には衆の秘書が収納され、これを調剤した妙薬が評判となり多くの参拝者を集めめた。

二体の仏像が安置される本堂は「千日堂」と呼ばれ、仏像の制作と同時代に建立された。江戸時代半ばに洪水被害を受けた後、建物の丈を下げる改修や壁の補強が実施された。

源宗寺の大仏には、仏師による影の力強さと横細さを併せ持った美しさがある。地元の方々をはじめ産官学連携を基軸に、次世代へ歴史を継承するため、令和の保存修理プロジェクトを進めてきた。

長い時代を超えて黙想を続いている薬師如来と觀世音菩薩。調和した仏像の美が人間の魂に希望を与え、信仰の歴史を未来へとつなげている。苦難と希望の挑戦をここに伝えたい。



新本堂に安置され修理中の仏像

1954年	熊谷市有形文化財彌刻に指定(木彫大仏坐像(平戸の大仏))	2020年3月～6月 コロナ禍による事業の休止、寄附金募集の停滞
1970年代～	熊谷市議会等で保存修理の必要性が言及される	2020年7月 工事費用を予定の総計5,000万円から4,000万円に低減し設計再構成
1990年代～	時折、保存修理事業への機運が高まったが、実施には至らなかった。	2020年9月 業者決定(株式会社大島工務店)
2011年	東日本大震災を機に、愛染堂、源宗寺など本堂建物の現状調査。	2020年10月 仏像移動に関するプロジェクトチームの協議開始
2015年	熊谷市下川上の愛染堂保存修理事業の開始(～2016年)	2020年11月 仏像移動と本工事に際しての準備施工開始、本堂内の清掃
2017年	熊谷市教育委員会にて既存備所等の調査を開始	2020年12月 保存修理事業の実質的工事開始、仏像移動、旧本堂解体開始
2018年1月	熊谷市教育委員会にて保存修理事業の立案開始	2021年2月 2Hに地鉄式開催、開発審査事務等
2018年12月8日	源宗寺堂主・平戸の大仏一般公開	2021年3月 敷地内の排水計画等を含む適合証明等事務
2019年1月	源宗寺本堂保存修理委員会準備会発足	2021年4月 基礎工事着手
2019年3月	地域住民、檀家、仏事寺(東竹院)、商工関係者、薬剤師会等を中心とした源宗寺本堂保存修理委員会発足(会長:木島一也)	2021年6月 本堂建築(現地での木工事業)の実質的着手、22日(土)上棟式開催
2019年4月～	大学、研究機関等を交え、保存修理工法、寄附募集等の検討を開始。	2021年8月 仏像保存修理事業(第Ⅰ期)
2019年7月27日	保存修理事業に向けた一般公開開催、定期公開の開始	2021年12月 本堂改修完工。仏像を再び元の位置に戻す曳舟作業実施。 12月25日、落慶式(12月22日～26日一般公開)
2020年2月	保存修理委員会に建築委員会を設置し新築案の策定	2022年4月～ 仏像保存修理事業(第Ⅱ期)